

平成28年10月定例教育委員会会議録

平成28年度塩尻市教育委員会10月定例教育委員会が、平成28年10月20日、午後1時15分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 11月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について

4 議 事

- 議事第1号 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について
議事第2号 市立学校職員に対する指導上の措置について<非公開>

5 その他

6 閉 会

○ 出席委員

教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委員	石 井 実	委員	小 島 佳 子
委員	林 貞 子		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
こども課長	青 木 正 典	家庭支援課長	百 瀬 公 章
男女共同参画・人権課長	熊 谷 善 行	市民交流センター次長 (子育て支援センター所長)	赤 津 廣 子
市民交流センター長 (図書館長)	中 野 實 佐 雄	図書館副館長	
交流支援課長	小 松 秀 樹		上 條 史 生
主任学校教育指導員	碓 井 邦 雄		

○ 事務局出席者

教育総務課課長補佐 (学校支援係長)	太田文和	平出博物館館長補佐	小松学
生涯学習スポーツ課課長 補佐(スポーツ推進係長)	田下高秋	生涯学習スポーツ課社会 教育係長	古畑比出夫
教育企画係長	米窪昌紀		

1 開会

山田教育長 皆さん、こんにちは。ただいまから10月定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。本日、中野生涯学習スポーツ課長から欠席の連絡がございましたので、御承知おき願います。

開会に当たりまして、一言挨拶をさせていただきます。10月も後半に入ってまいりました。もみじ前線が麓までおり初め、スポーツ公園のケヤキやカツラも美しく染まり始めてまいりました。また、空気も澄んでアルプスが見渡せるようになり、目の前はすっかりと秋の風景となってまいりました。さて、これからの時期、これまでの事業展開を振り返り、来年度以降に向けた施策の展開のあり方や、それに伴う予算の編成にかかわる大切な時期となります。こども教育、生涯学習、市民生活のあるべき姿を明確に持ち、軸のぶれない施策展開を図ってまいりたいと思います。

2 前回会議録の承認について

山田教育長 それでは、次第に沿って進めさせていただきます。2番、前回会議録の承認について、事務局からお願いいたします。

米窪教育企画係長 前回9月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いいたします。

山田教育長 それでは、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 では、そのようにお願いをいたします。

3 教育長報告

山田教育長 3番、教育長報告に入ります。それでは、私からは前回の定例教育委員会以後の動きの中から、地域とともにある学校づくりに関連して、洗馬通学合宿とシニア講座オシャレなステンドグラスライトづくりについて報告をさせていただきます。初めに洗馬通学合宿について報告いたします。本市の教育振興基本計画では、重点的に取り組みたいこととして、体験、経験の充実を挙げ、生きる力に直結する豊かな体験や経験を積んだ子供を育てようとしております。そうした学びの一環として10月5日から7日にかけて行われた洗馬通学合宿では、希望者23名が洗馬児童館、ふれあいセンター洗馬を合宿場として共同生活をし、学校に通う体験を行いました。終了後の子供たちの感想を読ませていただきますと、「みんなで生活するには協力が大切だと思いました」とか、「みんなと一緒になら何でもできると思いました」とか、「お父さんやお母さんなどの苦労や家庭の仕事について学びました」また、「協力してできたことは、これからの臨海学習や修学旅行に生かせると思います」とか、また「普段話したり触れ合ったりしない人と話せたりして、一緒によい生活が送れました」などがありました。体験を通して子供たちの自主性や社会性、自己肯定感が高まってきていることが感じられます。宿泊体験では、学社連携による入念な準備や対応が必要になりますけれども、今回はNPO法人わおんのほか、青少年補導委員、食生活改善推進協議会のボラン

ティア等の協力があり、連携して支援に当たっていただきました。これからでありますけれども、コミュニティ・スクールの機能を高めつつ、その一環として通学合宿などの体験的な活動が組み入れられ、異世代交流が進むとともに、それぞれがともに育っていくよりよい環境づくりが進んでいくとよいなと、そのように思ったところであります。

次に、9月27日に行われましたシニア講座オシャレなステンドグラスライトづくりについて報告いたします。この講座は、交流支援課の進める、えんぱーくシニア講座の一環で行われたものであります。この講座が生まれたきっかけですが、中学生の高ボッチ教室で子供たちが関心を寄せ、創造的に作り出したステンドグラスライトが市民文化祭の展示やえんぱーくで行われました塩尻市児童生徒図工美術作品展、さらにえんぱーくクリスマスでの販売活動などで、多くの市民や交流支援課の職員の目にとまったところにあります。交流支援課からこの講座開催を依頼された両角高ボッチ教室指導員は、「生徒も一緒にであれば講師役を引き受けますよ」と答えたそうですが、受け入れられたことで実現した講座です。この講座がどうであったかということは、参加者の声を聞けばうなずけますので幾つか紹介をいたします。「改善点は何もありません。大変よかったです。中学生の子供たちもわかりやすくよかった」とか、「ガラスの色の組み合わせや配置の工夫がいろいろできて楽しい。教えていただいた子供さんが気をきかせてくれてうれしかった」とか、「中学生の元気のよい優しい顔を見られてよかった」さらに、「生徒さんと和気あいあいと作業ができて楽しかった」などがありました。一方生徒たちは、「完成したときに、ありがとね、素晴らしい作品ができてとてもよかったと言ってくれたのでとてもうれしかった」とか、「2つ目をつくり到高ボッチへ行ってもいいかときかれたので、ぜひ来てください、待ってますと答えました」とか、「人に物事を伝えるのが苦手な緊張したけれども、参加者がどんどん話しかけてくれ、すぐにほぐれた。とても楽しいいい経験だった。ぜひ教室へもつくりに来てほしい」などといった感想がありました。今回、この講座のチラシの中に交流支援課では、「高ボッチ教室に通う生徒たちとさまざまな世代の方との交流の機会をつくることを目的に、今回の講座を開催することにしました。交流を深めながら楽しんでもらえば幸いです」とありますけれども、こうした願いに加えて子供たちが苦手なコミュニケーションを深めて、見知らぬ人と時間を共有し1つのものをつくり上げていくという、そういった創造性、社会性をともに高めるということで、見事に願いがかなった、果たされた、そういう機会だったと思います。この講座からは、さまざまな子供たちが学校から地域に飛び出して、地域の方々に働きかけ、地域の方々の学びの機会をともに創出し、ともに学ぶことの楽しさやよさを味わいながら、豊かで充実した時を過ごすことができることが、示唆されたと思います。今後の地域とともにある学校づくり、また学校を核とした地域のコミュニティづくりの重要なヒントになるなあと、私は思いました。

以上2点について、本日は報告いたしましたけれども、中学校の文化祭の様子、また参加いただきました各行事や会議等を通して気がついたこと、また意見等ありましたら、各委員の皆様から発言をいただきたいと思っております。以上で、私からの報告を終わりにいたします。

今の報告についての御質問等ありましたら、お願いいたします。

小島委員 洗馬の通学合宿、とてもいいことだと思ひまして、今のお子さんたちって、私たちの小さいころはいとこの家に泊まったり、親戚の家に泊まったりして、結構家以外のところに泊まる機会が多かったんですが、今の子供たちっていとこさえいなかったり、親が親戚とあまりつき合っていなかったり、親戚が遠かったりして、他人とか、よその家に泊まる機会が極端に少なくなってるんですね。やっぱりよその家に泊まってみて、我が家とは違うルールがあるんだってことをわかったりしてとか、あと友達同士で、食事の準備をしたり、宿題を一緒にやったりっていう、そういう大切な機会だと思うんですね。ですから、私の提案としては、ぜひ全市の小学校で実施してほしいと

思いました。以上です。

山田教育長 そのあたりについて、係長さん、何か。今、多くの子供たちにそうした経験をさせたいという話でありますけれど。

太田教育総務課課長補佐（学校支援係長） まずはですね、実際にやってみた感想から述べさせてもらいます。2泊3日、23名のお子さんを預かるという、この対応というのはかなり難しいものがあります。正直なところ、我々教育委員会が全て9校ですかね、を面倒見て、実施していくというのは、一斉には多分不可能に近いものを感じました。こういった今回の活動が、地域の活動みたいな形になれば、より小規模でお預かりしやすいものになるんじゃないのかなというのは、私の感想です。あとは、そうですね、やはりかなり学校からもそうですし、地域の方からも協力をいただかないとうまくできませんので、そこらを今後どうやって展開していけばいいのかなという課題はあります。できればね、広げていっていければ、子供たちもぜひ1週間泊まりたいっていうような子もいたんですとかね、ありましたので、やってあげれば一番いいのかなとは思っているところです。

山田教育長 よろしいですかね。

石井委員 ちょっと聞き逃したかもしれませんが、人選は、希望者を集めたっていうことですね。

山田教育長 そうですね。

石井委員 ただ単なる希望者を集めてやったと。

小島委員 伊那では、もう何年も前からこの通学合宿を実施してまして。たしか研修会でお伺いしたときに、伊那ではそういう地域のボランティアの方を募って、ボランティアの方に何かほとんど任せてるというお話をお伺いしたので、ぜひ伊那のことも参考にさせていただきたいと思います。

山田教育長 今、太田係長さんのほうから言われたように、コミュニティ・スクールという1つの新しい方向の中で地域がともに子供たちを育てていく、その一環の中でできれば一番いいと思います。また今、県の生涯学習センター、片丘にありますけれども、ここでは宿泊合宿とか、宿泊体験、宿泊をサポートするための人材育成の講座を開いておりますので、そういったところへ、これからコミュニティ・スクールの中の学習支援とか、子供たちを支援する方々が講座を受けて、そしてそういった方が中核になりながら、子供たちの宿泊的な体験ができる、そういったチャンスをふやしていくことが望ましいかなというように思っています。また小島委員の考え方、大事にしていきたく思います。

小島委員 ありがとうございます。

山田教育長 ほかの面では、よろしいでしょうか。

○報告第1号 主な行事等報告について

山田教育長 それでは、報告第1号、主な行事等の報告について、お願いをいたします。資料の1ページから5ページまでです。事務局より主要な行事について、御説明をお願いいたします。

小松平出博物館館長補佐 それでは、資料1ページの一番上をお願いいたします。9月17日に平出博物館土曜サロンを開催いたしました。今年度は、市有形文化財を見直そうという総合テーマのもと6回の講座を予定しております、4回目となります今回は、「信濃の布生産と火熨斗」という演題でカインズホームの敷地内にあります和手遺跡の発掘調査で発見されました、全国でも8例ほどしか発見されていない平安時代のアイロンである火熨斗を中心とした講演を行いまして、市内はもとより県内外から44人の参加がございました。以上です。

山田教育長 参加者の反応はどんなものでしたでしょうか。

小松平出博物館館長補佐 今は電気のアイロンを使っていますけれども、炭を入れてしわを伸ばすという、そういったものの存在を知らない人が多く、なおかつ全国で8例という非常に貴重なものが

こんな地方から発見されているということで、皆さん非常に驚かれていました。そして、平安時代には、この信濃の国には信濃布という絹製品ではない麻製品のブランド品があったということを認識していただいたと思います。

山田教育長 ありがとうございます。続いてお願いします。

古畑生涯学習スポーツ課社会教育係長 生涯学習スポーツ課から第30回全国短歌フォーラム in 塩尻の報告をいたします。日程は、9月24日土曜日、25日日曜日の2日間で実施いたしました。第1日目は、レザンホールにて、選者3人による投稿歌の選評、表彰式、また選者と司会者の4人によるトークイベントを行いました。本年度の投稿者数は1,521人、投稿歌数は2,922首ということで、昨年よりも投稿者で107人、投稿数で240首上回っております。また、この1日目の模様は、11月5日の土曜日、NHKEテレで14時から放映されます。2日目は、塩尻みである記として、コースを2つ設定いたしました。まず短歌の里めぐりといたしまして、塩尻短歌館周辺の案内と、平出遺跡公園から平出博物館、ブドウ狩りという催しを行いました。

成果といたしまして、塩尻市の文化である短歌を通じて、豊かな心を育む教育文化のまちづくりを推進するとともに、大会の様子をテレビで全国放送することで、短歌のまち塩尻を全国発信いたしました。また、会場前では特産品の販売や、2日目の塩尻みである記等、来場者に塩尻のブランドをPRをいたしました。今回は、30回の記念大会といたしまして、最優秀賞につきましては、自由題と題詠の各1席を設けました。また、30回の特別の設定になりますが、30歳賞を増設いたしました。また、30回連続投稿者の方には表彰状と、記念のワインを贈呈いたしました。大会記念ということで、当日限定のラベルを張ったワイン、赤、白各20本ずつ物産コーナーで販売をいたしまして、即完売というような状況でございました。

その他といたしまして、若年層の投稿者の拡充について検討が必要であるという、例年の課題ではありますが、今回、107人増加したうちの約65%が10代から40代の方でありました。そして、今回の最優秀の方につきましては、自由題は24歳の方、題詠歌は46歳の方ということで、毎年の課題であります若年層の投稿者も、今回については増えているというような結果になりました。これを今後も続けていけるかが、次回への課題ということになると思います。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。続いてお願いします。

上條図書館副館長 それでは、市民交流センターの行事報告でございます。図書館からは4ページです。3段目でございますけれども、信州しおじり本の寺子屋講演会です。年度を通して順調に開催しております。9月25日日曜日、「本の魅力ー書評の功罪ー」というテーマで三島利徳さん、元信濃毎日新聞社の論説委員を務めた方を講師に迎えた講演会でございます。信濃毎日新聞では、独自の書評委員を選考して、書評を掲載するという取り組みでは、地方紙では全国的に見ても先行的な実績を上げたということでございまして、1989年からスタートしたということでございます。もちろん中央からも書評委員を選考するとともに、長野県内の識見者も書評委員に迎えまして、地方の出版文化も大事にしながら書評を展開してきたということでございます。書評の功罪ですので功績と罪過、両面からというお話でしたけれども、特に功績の部分で地方紙として果たしてきた役割、また近年では、新聞自体の発行部数が減っていく中で、書評の影響力が減少をしておりますけれども、読者と本をつなげる上で識見者の目を通した書評というのが、良書にたどり着く上で大変大事なものであるということですし、図書館といたしましても利用者の皆様方によい本を届けるという意味では、書評を通した選書というところにもしっかりと配慮をしていかなければいけないということを感じたところでございます。参加者は39人ということでございました。図書館からは以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。

小松交流支援課長 では、おめくりいただきまして5ページ、一番上でございます。10月1日、2日の両日、こどもアトリエタウン2016でございますが、えんぱーく3階の市民サロンを子供の美術の街に仕立てまして、近隣の美術作家の先生により、こどものための体験型アートイベントを開催いたしました。当日は、会場を森に見立てた装飾を行い、13のブースの中で仮面をつくりたり、粘土細工をしたり、壁かけ、エプロンをつくるなどのブースで、それぞれのブースで美術作家の先生が直接対応、指導を受けながら、いろんな美術作品をつくりました。毎回人気があるものですから、こしは初めて土曜、日曜と両日開催をいたしまして、実際につくった御家族が462人でございました。作品を見て楽しむという方も含めれば、かなりの方がこのこどもアトリエタウンを訪問していただいた次第でございます。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

赤津市民交流センター次長(子育て支援センター所長) それでは、子育て支援センターになります。同じく5ページの最後の段になりますけれども、10月10日に子育て支援講座としまして、山口マオ講演会を開催いたしました。内容としましては、絵本作家であります山口マオさんをお迎えしまして、「私の絵本作り」ということでいろいろお話をいただいたところです。山口マオさんという方は木版画をもとにして、それを絵本にするという形で、御存じの方もいらっしゃると思いますが、「わにわにシリーズ」と言ってワニが主人公になっている絵本があります。これは子育ての世代の皆さん御存じの方が多ということで、人気の作家さんです。当日も市内、市外、大勢の方が見えて89人の参加がありました。15人託児枠を用意していましたが、お子さん連れで会場に入られて1時間半という時間、集中できるかなという感じもあつたんですが、途中でギターを琵琶のかわりに演奏して語りをしてくれたり、実際木版画をやっているところを見せてくれたりとかして、お子さんもすごく聞き入るというような形で親子ともども楽しんで帰られました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。さまざまな行事があつたこの10月でありますけど、それぞれの委員の皆様から質問、御意見ありましたらお出しをいただきたいと思います。お願いします。

林委員 今月の14日に中学校の合同音楽会がありました。そのときにちょうど私たち教育委員の研修総会ということで、飯山のほうに出かけなければいけないということで誰も出席できませんでした。後から主催の先生たちが、どうして教育委員の方はどなたもいらっしゃらないのかしらと非常に疑問に思つたということをお聞きしたので、事務局のほうで、こういうことで出席できないというようなことを一言一報しておいていただければ、そんな不安もなかつたんじゃないかなというふうに思つたので、今後そんなふうにしていただきたいなと思います。

山田教育長 いいですかね。では、ほかの件でお願いします。

小澤教育長職務代理者 では、3点について意見やらを述べたいと思います。1つ目は短歌フォーラムの件です。塩尻の一大イベントであります短歌フォーラムが節目を迎え、これを無事乗り越え、安堵するわけです。しかも投稿数や注目度が右肩上がりの傾向を見せている。今後期待するわけです。さて、この委員会や新聞等々の報道にもありますが、投稿数をふやすための工夫、策をめぐらせたことが話題です。例えばインターネットだとか、他市町村への働きかけだとか、投稿の期間を延長するとか、新たな賞を設ける等々があり、様々な試みに挑戦した事務局の意気込みにまず敬意を表したいと、そんなことを思うわけです。そこで、さらにグレードアップというか、投稿数がふえてくるためにはどうしたらいいか、なんてことをちょっと思うんです。塩尻の短歌フォーラムは、選者は超一流、30年の積み重ね、短歌の里、これだけ3つそろると非常にネームバリューはあるし、格式が高い、敷居が高いわけです。一般の方にとっては、自由にアットホームに、気軽に投稿するという雰囲気にはならないかなということを感じるわけです。それで、節目を越えた今、一流というワードから一般というワードに少しスタンスを変え、方向を変えても、あるいは探しても

いい時期かななんてことを思います。例えば課題、題はやめてフリー投稿にするとか、あるいは投稿料を半額にするとか、そんなような、気軽さというワードに向けてのアクションを少しずつ水面下で求めていく時期かななんてことを思いました。

2つ目、平出博物館ですけれども、今まで何げなく、さりげなくちょこんと置かれていた地域の文化財に、特に今年の平出博物館はスポットを当て、講座という形で表出してくてくれるわけです。先ごろ片丘では、片丘は何にもない地域と思っていたら、熊井城の城跡についての講座がありまして、驚いたことに140名近くの人たちが集まって来たわけです。そのほとんどは片丘在住の人です。あの人数を見たときに地域の人たちは、本当に地域のことを知りたいんだな、わかりたいという熱意にあふれているということが、よくよくわかりました。ですから今後も地域のさりげないものにスポットを当てた講座、企画、作品展等々を計画していただければありがたいわけです。先日もある人と話したとき、地域には人材はいっぱいいる、隠れていると。例えば中央の大学で活躍したとか、中央の名のある企業で頑張ってきた人たちが、退職して帰郷して静かに暮している。目立たないように暮している。そういう方々にもう1回活躍するとか、身に着けたそのノウハウとか、その方々が体得したものを地域に還元してもらおう、そういう場を設けてほしいななんてことを話し合ったわけです。それで今度は地域の人というところにスポットを当てていただければ、地域の文化も相当に高まり広まるだろうな、そんなことを思いました。

3つ目は、教育長報告にありましたオシャレなステンドグラスです。ステンドグラス自体は幻想的で、ロマンチックで、人を引きつけるような作品ができますから、これは人気が出るだろうななことは思います。新聞で報道されたあの紙面を見たとき、私は本当にびっくりしました。若い女の子、中学生ですけど、生き生きとした表情で写ってたんです。私も高ボッチ教室にかかわりました。あのころの考えというのは世間とちょっと線を引いているから静かにそっとという考えでした。写真に出るなんてとんでもない。こういう穏やか路線であったわけです。ところがあえて現在の指導員は、生徒を表に引っ張り出し、あのような感想を述べるような子供たちの姿に成長させていった。ということで、さま変わりしたとか、私たちが立ち往生していたことを、両角指導員は割ってくれたと、そんな思いで新聞報道を見させてもらい、うれしく思ったわけであります。さて、高ボッチ教室の子供たちは、それなりにそれでOKだと思います。ただ世間には日の当たらない大人、子供がまだまだ大勢いるんです。引きこもり、立ち往生している子供たちがいる。何かの機会を得て、その子供たちも表に出てきて、地域の人たちに励ましていただければ、一緒にやろうと声をかけてもらえる。そういう場ができれば、それこそ1億総活躍社会に近づくのかななんてことを思った次第です。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。今の点で事務局のほうで。

古畑生涯学習スポーツ課社会教育係長 短歌フォーラムにつきましては、選者については第1回から短歌界を代表する歌人をお迎えして、今日まで続けてきております。ほかの自治体の同様のイベントも幾つかありますが、その中でも一番格式が高く、第一線であるという認識があり、また外部の評価もあります。投稿料のことにつきましては、これまでも何回か無料にしたらどうかという意見がありました。投稿料につきましては、選者の審査を受けて賞を決めておりますので、その審査料という意味もあります。中には審査は求めないが気軽に参加したいという意見も以前にはありました。題詠歌を設定したのは、20回の記念大会からで、それまでは自由題のみでしたが、こちらにつきましては、投稿数の確保を目的として設定し、現在に至っております。今後、実行委員会の反省会におきまして、検討してまいりたいと考えております。

昨年、若手の歌人と、若手のお笑い芸人を交えて短歌をテーマにしたトークイベントをえんぱーくで開催しました。これまで短歌フォーラムに参加してきた人たちとは違う年齢層が集まって、当

日はかなり盛り上がりました。日ごろ、短歌のサークル等で活動している方々以外も巻き込めるような企画を引き続き実施してまいります。本年度は、2月を予定しております。投稿者の拡大につきましては、今年度はインターネットで投稿できるようにし、また、申込書の配布先を、従来に加えて道の駅や観光案内所等、より人が多く行き来する場所にも配布したことも投稿の増加につながったのではないかと推察しております。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、委員さん方あとはよろしいでしょうか。

小島委員 子育て支援の山口マオ先生の講演会、やはり人気の作家さんなので89人という方が参加してくださってとてもうれしかったのですが、その上の「えんぱーくで夢をみつけよう～英語のお仕事編」、これ私てっきり定員オーバーになってると思っていました。たった10人で、中学生の子供は、中学校からチラシを持ってきて知ってたんですが、高校生にはどのようにして広報したのか。それとこの10人の参加者の中の高校生の割合ってというのは、一体何人いらっしゃるのかお聞きしたいのですが。

小松交流支援課長 高校生は、館内に高校生来てるものですから中にチラシ展示と、それからインターネットや、ホームページ等でお知らせをしてあります。初めての企画だったものですから、これからは研究課題はあると思います。

小島委員 ありがとうございます。

山田教育長 ではまた、周知の仕方について工夫をいただきたいと思います。

では、先へ進めさせていただきます。

○報告第2号 11月の行事予定等について

山田教育長 それでは、報告第2号、11月の行事予定についてお願いをいたします。資料は6ページになります。全員と書かれているところについて確認をしてみたいと思います。1日市民文化祭・展示発表の部です。それから3日が、文化祭・舞台発表の部の開会式並びに舞台発表の部。それから展示発表の部の表彰式等が行われます。それから10日が、市内小学校合同音楽会でレザンホール。それから翌日11日が、劇団四季のこころの劇場です。それから12日土曜日ですが、長野県図書館大会があります。それから16日が、市のPTA連合会の教育行政懇談会。それから翌日の17日が、地域とともにある学校づくり推進フォーラム、これは長野市で行われるものです。それから21、22日が金沢市で行われる市町村教育委員会研究協議会。24日が定例教育委員会と協議会。それから26日、全国短歌フォーラム in 塩尻の学生の部。それから29日が、檜川中学校の授業参観、それから午後木曾檜川小でのこんにちは教育委員会があります。全員と書かれている予定が多いわけでありましてけれども、それぞれ御都合をつけていただける範囲で、御参加をいただければありがたいと思います。また、本日のように参加されたときの様子、また率直な御意見等ありましたら、また次回お聞かせいただければというように思いますので、よろしくお願いたします。この件については、よろしいでしょうか。

石井委員 先ほどちょっと話が出ましたけれども、小学校の合同音楽会、これは父兄も来まして非常に大勢になると思うんですね。この間、吹奏楽の発表会のときにも来賓の席と言って用意をいただいたんですけど、その来賓の席が2人か、3人座っているだけで、2階を見ると保護者の方が立っているというような状態で、非常に居心地が悪かったわけですがけれども、そこら辺はやっぱり、あんまり来賓の椅子っていうようなことで意識してもらわないほうがいいんじゃないかなというふうに。お母さん方、本当に上のほうで小さくなっているようじゃ気の毒かなあなんて。来賓の席もいっぱい詰まっているならいいかと思えますけどね。そんな状態でしたので、そこら辺はやっぱりお考えいただいたほうがいいんじゃないかなというふうに、私は感じましたけども。

山田教育長 小学校のほうは、入れかえがありますので座席には余裕があると思いますし、またどこにどの程度の来賓用の座席をとっていただくかというようなことについては、担当の校長先生と連絡とっていきたいと思います。

石井委員 フリーが一番上のほうの隅っこでいいんじゃないですか。

山田教育長 ぜひ、いいところで聞いてほしいというような、担当の係の先生方の希望もあるかと思えますけれども。

では、よろしいでしょうか。では、次に進ませていただきます。

○報告第3号 後援・共催について

山田教育長 次は報告第3号、後援・共催についてです。資料の7ページから教育総務課、8ページ生涯学習スポーツ課、9ページに続きます。それから10ページ交流支援課、それから11ページ図書館とありますが、御質問、御意見ありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。それでは、次に進みます。

4 議事

○議事第1号 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

山田教育長 議事に入ります。議事第1号、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について、お願いをいたします。資料の12ページから19ページまでです。事務局から説明をお願いいたします。

碓井主任学校教育指導員（市教育センター） それでは、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果公表についてお願いいたします。これは本年4月19日に実施した平成28年度全国学力・学習状況調査について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするというものでございます。

2の調査の概要であります。本市では例年同様全小中学校が参加し、小学校6年生が532人、中学校3年生が585人で実施をいたしました。

3の調査結果についての（1）教科に関する調査結果の全体概要ですが、小学校6年生は全ての教科で全国及び県平均正答率を上回り、特に国語Bについては大きく上回りました。中学校3年生についても全ての教科で全国及び県平均正答率を上回り、特に数学Bについては、大きく上回りました。イにつきましては、記載のとおりとなっております。

続いて13ページ（2）には、各教科別の調査結果と今後の対応の概要が、小学校国語、算数、中学校国語、数学、それぞれについて、定着についてはおおむね良好な状況であります。課題の状況、また今後の対応について記してあります。

続いて14ページ目からは、生活習慣等に関する質問紙調査の結果の実態からうかがえることについてであります。14ページには、アとして塩尻市の市民運動「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」の観点から全国の状況と本市の状況が比較できるグラフを載せてあります。本市はいずれも良好な状態であり、市民運動や各校での全校一斉読書、そして読書ボランティアの導入をはじめとした市立図書館や地域と連携した取り組みの成果があらわれているものと考えられます。

15ページのイには、学習に関する観点から（ア）として、授業の課題への取り組み方、（イ）として、平日の1日の家庭学習時間について載せてあります。多くの子供たちは、学校の授業に主体的に向かっている姿がうかがえますが、家庭学習の時間については、昨年より小中ともに2時間以上がやや減って、30分未満がややふえており、個々への対応の必要性が見えてきております。

16ページは、ウとしてその他の観点から（ア）携帯電話やスマートフォンの所持率、（イ）テレ

ビゲームの1日の使用時間について載せてあります。スマートフォン等の所持率はことしも小中ともに増加し、それに伴いテレビゲーム等も1時間以上している小中学生は、増加している状況にあります。

17ページには、4としてこれまでの取り組みの成果と考えられる点について載せてあります。(1)の教科指導面では、アにありますように、各校での授業の充実がうかがえるグラフも載せ、(2)児童生徒への支援の面では、特別支援教育、Q-Uアンケート、コミュニティ・スクールの組織の活用について記してあります。

18ページの5、今後に向けては、(1)として塩尻市の重点施策を活かす取組、そして(2)のきめ細かな支援の項に元気っ子応援事業、市単独の学力向上TT加配について、継続、充実を記し、ほかに教員の指導力向上と授業改善についてなどを載せてあります。

19ページの市内S中学校の学力向上に向けた取組、これは市内での取り組み事例ではありますが、ここでは、協議会の折に御指摘いただきました取り組みの成果についてをリード文の5行目から3点つけ加えをいたしました。以上のように考えておりますが、よろしくお願ひいたします。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、公表の原案ということですので、御意見、御質問ありましたら、お出してください。

小澤教育長職務代理者 お願いします。協議会の中で説明を受けたり、あるいは事前に資料が配付されたりということ、しっかり目を通すことができたわけです。これでいいと言いますか、これで広報してもいいだろうなと思います。そこでさらに願うことでありますけれども、今、コミュニティ・スクールが少しずつ進んできております。そうすると、地域では活動の中身をもっと知りたいという気持ちが高まってくるわけです。例えば、18ページの(3)ア、イの一環として19ページが設定されると思う。そうすると、さらにということ、小中一貫の指導内容・方法の研究、どんなことをしているのかを、もっと知りたくなるわけです。(5)(6)も同じです。コミュニティ・スクールの振興がうまく滑らかに進むためには情報をしっかりと、活動している内容を市民に理解していただく。こういう営みをしていく必要があるだろうと思いますので、19ページのような、こういう項目を設けていただいて、活動を市民に広報していただきたい、そんな要望です。以上です。

山田教育長 具体的に今回のものについては、これで公表ということは、よしとした上でということですね。

小澤教育長職務代理者 はい。

山田教育長 より具体的にコミュニティ・スクール、特に学校運営協議会といったようなところで理解をしていただくと。

小澤教育長職務代理者 市民向けに。協議会の役員の人たち、つまり上部の人たちは知っている。これはこれで結構なことですが、市民に広く知れ渡る、市民が知る、このことがコミュニティの成功の鍵と、こう訴えたいです。

山田教育長 特に(4)、(5)、(6)の後へ。

小澤教育長職務代理者 例えばね、ここに入ればね。例えばね。

山田教育長 じゃあ、またそのところについては、協議を進めてまいりたいと思います。

小澤教育長職務代理者 頑張りましょう。

山田教育長 この件について。

石井委員 今の発表を聞いてみてですね、今まで塩尻市の教育委員会として取り組んできた「早ね早おき」というようなことでやられてきて、その成果が着々と生まれてきているというようなことで、塩尻市の教育委員会としては、先生並びに生徒がどんどんとそういった環境の中から伸びてきてい

るなあということ、どうですか。小澤先生とか、山田先生。

山田教育長 先日の校長会の際にも話をしたんですけども、結果的には学力の状況も学習状況もいいと思うんですね。それは、平均とした場合についてであって、例えば、全ての学校が同じように平均のところにいるわけではありませんし、それから複数の学級のある学校において、どちらの学級も同じようにバランスよく成長しているところもあれば、学級間によって格差があるところもあります。また、個々の子供たちに目を向けていくと2極化というような傾向が見られるところもあります。上位にはたくさんいる。しかし中位から下位のほうにもいて、その間が少し抜けているという。そうすると一番最終的には、一人一人の伸びていく力を伸ばしていかなくちゃいけないので、そうした課題をしっかりと解決することによって、学校間、学級間、個人間の格差をできるだけ縮めていく。そういう施策、努力はこれからも必要だと思います。

もう一方、先生たちの指導力から言ったときには、一番課題だと思っていることは一人一人の子供たちをどう理解しているかということだと思います。一人一人の育ちに丁寧に向き合うためには、子供を理解できなくて向き合えるわけにはいかないの、そうしたときに子供たちの学力の実態、学習状況の実態、その背景というものを一人一人の子供たちについて先生方はつかんで、そして、その上でしっかりとしたプランを持って学習指導をしていく。そういうことが可能になる学校職員集団とか、教職員の文化をさらにつくっていかないとはいけないと思っております。今後そんな課題にも対応しながら進めてまいりたいと思っております。

石井委員 ありがとうございます。

山田教育長 あとはよろしいでしょうか。

それでは、ほかはないようですので、議事第1号を原案どおり決定をし、公表するということがよいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議事第2号 市立学校職員に対する指導上の措置について〈非公開〉

山田教育長 それでは、議事第2号、市立学校職員に対する指導上の措置についてを議題といたします。

〈非公開部分削除〉

山田教育長 それでは、次へ進みたいと思います。

5 その他

山田教育長 その他に入ります。その他事項、何かありましたらお願いをいたします。

青木こども課長 それでは、こども課からにぎやか家庭応援事業関係の講演会を2件お願いいたします。お手元にチラシをお配りしてございますが、まず、にぎやか家庭応援事業しおじり子育て応援講演会についてお願いをいたします。日時は11月6日の日曜日になります。午後1時半から保健福祉センターで、しおじり子育て応援講演会を開催させていただきます。講師に慶應義塾大学総合政策学部准教授で教育経済学者の中室牧子先生をお迎えしまして、「教育に科学的根拠を」と題して御講演をいただきます。中室先生は、教育を科学的に捉えまして、思いやりや協調性、それから社交性、自制心、勤勉性と言った、いわゆる非認知能力と言われているものを高めて、相対するところのIQ、学力と言った認知能力、これを合せまして人間の総合的な力を養っていくことの大切さを訴えておられる先生です。著書としましては、「学力の経済学」と言った御本もございまして、

最近NHK等のメディアにも御出演をされております。御存じの方もいらっしゃると思いますが、ぜひ御聴講をいただければと思っております。

それから、もう1枚のチラシになります。巡回子育て応援講演会についてでございますが、こちらは、昨年レザンホールと市内15公立保育園で巡回講演をいただきました教育評論家の松居和先生を本年度もお願いをしまして、今回は公民館と共催で地域の皆さんを対象としまして市内5地区の公民館において、「子育てはかすがいい」と題しまして、子供を家庭で育てること、それから地域社会で育てることの大切さについて御講演をいただきます。日時と場所はごらんのとおりとなっておりますので、こちらにつきましても、ぜひ御聴講をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。こども課からは以上でございます。

百瀬家庭支援課長 それでは、続きまして児童虐待防止推進月間について、お願ひをいたします。11月は児童虐待防止推進月間となっております。今年度は、「さしのべてあなたのその手いちはやく」というような全国統一の標語に基づいて、推進月間が行われます。本市におきましては、11月5日の土曜日に大門のウイングロードビルと広丘のGAZAにおきまして、街頭啓発を行う予定となっておりますので、よろしくお願ひをいたします。

それともう1点ですね、塩尻市元気っ子応援事業の元気っ子講演会について、黄色いチラシになります。本年度は、元気っこ応援講演会を11月17日木曜日、午後1時半から市民交流センターのえんぱーくで開催をいたします。今年度も昨年に引き続きまして信州大学医学部附属病院の子どものこころ診療部長の本田先生をお招きをしまして、今年度は、「思春期からでも遅くない」という演題で御講演をいただくことになっております。元気っ子応援事業も今、中学3年に拡大をしております。来年は中学卒業というようなこともありまして、思春期をテーマにした講演会を開催をしておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

熊谷男女共同参画・人権課長 それでは、私のほうからはこちらのチラシになりますけど、平成28年度女と男21世紀セミナー御案内させていただきます。こちらのセミナーにつきましては、男女共同参画を進めていただくことを目的に集まいただきました市民のワーキンググループの企画によるセミナーでございます。テーマはそこに大きく書いてありますけれども、「自分をプロデュース『今』が自分のスタートライン」というテーマで、内容をしましては、性別を問わず自分らしく生きていくにはということをテーマにライフプランをつくりながら、その内容を考えていただくという内容でございます。講師には、県内各地で男女共同参画につきましてはの講演やセミナー等を開いております内山二郎さん、長野市の方ですけれども、をお招きいたしまして開催する予定でございます。11月13日日曜日、会場はえんぱーく5階のイベントホールという内容でございます。よろしくお願ひいたします。

山田教育長 あとは、よろしいでしょうか。では、本日予定されていた案件、全て終了いたしました。

6 閉会

山田教育長 それでは、以上をもちまして、10月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時30分に閉会する。

以上